様式２

都市再生整備計画　事後評価シート

藤川地区

平成25年12月

愛知県岡崎市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	岡崎市	地区名	藤川地区			面積	40ha
交付期間	平成21年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	1,971.8百万円	国費率	0.4		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	・道路事業（市道藤川沖田４号線　市道藤川沖田４号線（名鉄横断部）　市道藤川沖田１号線　市道藤川田中線） ・地域生活基盤施設（情報案内板　防災倉庫（地域交流センター内）） ・高次都市施設（東部地域交流センター）
	提案事業	・地域創造支援事業（普通河川十王川暗渠化　山綱川左岸堤防道路　地域振興施設） ・まちづくり活動支援事業（藤川宿魅力増進事業　市民ワークショップの開催）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	・道路事業（市道藤川西川向１号線）	鉄道事業者との協議に時間を要し、期間内の実施が困難になったため、基幹事業から削除し関連事業に追加した。	「目標3:地域の基盤施設を整備し、地域住民が安心して暮らせる環境をつくる」に若干の影響が考えられるが、事業場所が基盤施設の先線にあることから数値を量るもととなる地区全体としての事業量に大きな変化がないと考えられるため、数値目標は据え置く。
	提案事業	・地域創造支援事業（市道藤川沖田３号線）	当初は用地買収を伴わない整備（維持修繕）であったため、提案事業（地域創造支援事業）としていたが拡幅を伴う道路整備計画になったため基幹事業（道路事業）に変更した。	事業区分等の変更であるため数値目標は据え置く。
新たに追加した事業	基幹事業	・道路事業（市道藤川沖田３号線）		
	提案事業	・地域創造支援事業（藤川宿本陣跡広場整備）	宿場町の中心施設であった本陣跡地の寄付を受け、それを活用し、観光客の休憩場所となる広場整備を行う事により、歴史的資源の魅力増進と多様な人々の交流が促進され地域の活性化につながると考えられるため追加した。	「目標2:地域の資源を生かしたまちづくりを進め、多様な人々の交流による地域活性化を図る」に影響が考えられるが、数値を量るもととなる地区全体としての事業量に大きな変化はないと考えられるため、数値目標は据え置く。

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成21年度～平成25年度	－
	変　更	―	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	市民活動施設利用者数	人/年度	7,307	H19	52,617	H25		89,170	○	あり		整備した東部地域交流センターには、市民活動の場となる各種活動室等を設置しており、市民活動の場が創出できたことにより、活動の機会が増加し施設利用者数も増加したと考える。東部地域交流センター周辺の交通環境についても、市道藤川沖田４号線の整備や市道藤川田中線改良工事など、安全なアクセス路の確保により利便性が向上したことも施設利用者数が増加した一因と考える。	平成26年5月
										なし			
指標2	藤川宿資料館入館者数	人/年度	1,328	H19	1,433	H25		1,300	△	あり		藤川宿の魅力向上に向け、地域振興施設(道の駅「藤川宿」内)の整備や情報案内板等による観光情報発信・情報提供を実施したほか、旧野村家住宅（米屋）における小箱ショップのような活用等によって藤川宿の新たな魅力が創出されたことにより、藤川宿資料館の入館者数に一定の改善傾向が見られているが、目標の達成には至っていない状況である。	平成26年5月
										なし	●		
指標3	防災訓練・講習等参加者数	人/年度	825	H19	1,137	H25		1,263	○	あり		東部地区の防災機能の向上を図るため、東部地域交流センターに防災備蓄倉庫や防災活動室等を設置したほか、その施設を防災展示や防災訓練等の準備会議の場として活用したことにより、藤川地区全体として防災意識が向上し、防災訓練・講習等の参加者数が増加したと考える。	平成26年5月
										なし			

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	藤川まちづくり協議会の会員数	人・社	34	H21				82			東部地域交流センターに市民が活用できる活動室や様々な情報の提供スペースが整備されたことに加え、まち歩きイベントや市民ワークショップの開催により地区全体でのまちづくり活動への関心が向上し、藤川まちづくり協議会の会員数が増加したと考える。	平成26年5月
その他の数値指標2	交流・休憩施設立地件数	件	1	H21				5			東部地域交流センターや道の駅「藤川宿」の整備により人が集まり、藤川地区ににぎわいが創出された。小箱ショップのような新たな取組を行っている旧野村家住宅（米屋）やむらさき麦の石臼挽きや麦茶作りなどが体験できる施設が開設されたほか、来訪者が集える新たな店舗が立地された。	平成26年5月

4）定性的な効果発現状況

・整備した地域交流センターについては、地域外の利用者も多く見受けられ、地域住民とのふれあいにより地域内外の広域的な交流にもつながっていると考えられる。
・藤川宿魅力増進事業などの実施などにより、地区内の歴史資源の活用に地域住民が多く携わっており、その取組が活発化するにつれて若い世代の関わりも増えつつある。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		―
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	①東部地域交流センターの整備内容検討のためのワークショップを行った。 ②「藤川宿本陣跡広場整備」の整備内容について藤川地区の代表者等を対象とした検討委員会を開設した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	①整備した東部地域交流センターについては、今後も地域住民参加型の施設運営の推進を継続していく。 ②整備した広場については、藤川宿を訪れた人の憩いの場となるような施設管理を行っていく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	①地区内の良好な景観を形成する上で重要な要素となっている旧野村家住宅（米屋）についての現地調査等を行い、保全及び活用の検討を行った。 ②藤川小学校の児童を対象として、藤川地区の歴史についての関心を深め、藤川の魅力を発見する事を目的に、フィールドワークやワークショップを開催した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	①旧野村家住宅（米屋）については、現在、藤川宿のまちづくりの拠点として、週末に開放しており、今後も地域住民主導のもと来訪者にとって魅力的な運用を実施していく。 ②今後も地域の次世代を担う子供たちが地域の歴史・文化を身近に感じられる取組を継続していく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

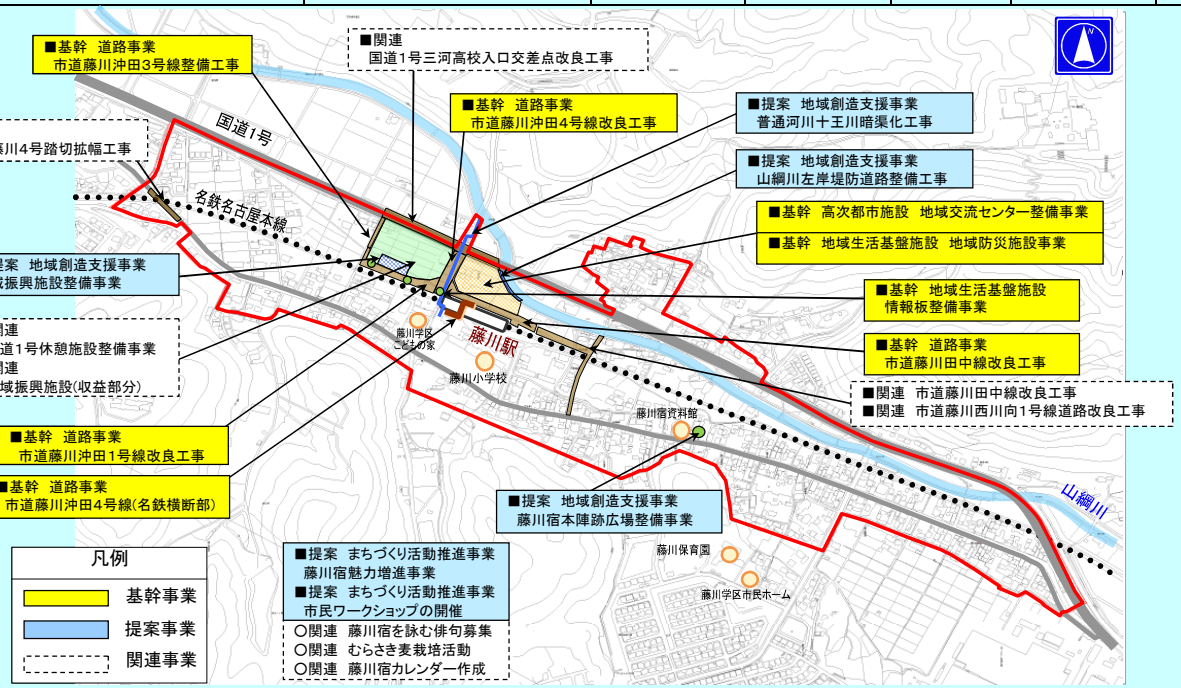
藤川地区（愛知県岡崎市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：安全で良好な生活環境を創出する、交流とにぎわいのあるまちづくり ○目標１：地域における市民活動（まちづくり活動やボランティア活動など）を活性化し、にぎわいと交流を創出する ○目標２：地域の資源を生かしたまちづくりを進め、多様な人々の交流による地域活性化を図る ○目標３：地域の基盤施設を整備し、地域住民が安心して暮らせる環境をつくる	市民活動施設利用者数	単位：人／年度	7,307	H19	52,617	H25	89,170	H25
	藤川宿資料館入館者数	単位：人／年度	1,328	H19	1,433	H25	1,300	H25
	防災訓練・講習等参加者数	単位：人／年度	825	H19	1,137	H25	1,263	H25
	藤川まちづくり協議会の会員数	単位：人・社	34	H21	－	－	82	H25
	交流・休憩施設立地件数	単位：件	1	H21	－	－	5	H25

■地域創造支援事業　地域振興施設（道の駅「藤川宿」）

■高次都市施設　東部地域交流センター

■地域生活基盤施設　地域防災施設（防災倉庫整備）



■道路　市道藤川沖田４号線

■道路　市道藤川沖田４号線（名鉄横断部）

■藤川宿魅力増進事業（ガイドブック）

まちの課題の変化	・市民活動の場となる各種活動室等を配備する東部地域交流センターの整備において、地域活動に関する会議場所の確保や子育て世代の交流の場が設けられたことにより、にぎわいと交流の場が創出され、地域活性化につながっていると考える。 ・東部地域交流センター周辺等の交通環境について、市道藤川沖田４号線や市道藤川田中線改良工事などにより、名鉄藤川駅と東部地域交流センターや道の駅「藤川宿」の安全なアクセス路を確保できたと考える。また、藤川宿への移動円滑化に向け、名鉄藤川駅の立体横断施設（跨線橋）を整備したことで地区の南北間のアクセス性が向上し、交流環境の創出につながっていると考える。 ・市民とともに藤川宿内の歴史的価値のある旧野村家住宅（米屋）の活用方法を検討し、まちづくりの拠点（小箱ショップ等）としてを開設することができた。そのほか、景観まちづくりガイドブックを作成し全戸へ配布したことや案内人養成講座を開催したことで藤川宿の魅力をPRできたと考える。さらには、藤川特産のむらさき麦の各種体験ができる施設が開設されるなど、地域の資源や歴史を生かした取組が実践されている。 ・道の駅「藤川宿」における情報発信スペースの設置及び情報板の設置による観光情報や、ウォーキングイベント等との連携により集客を図るなど藤川宿のにぎわいは創出されつつあるが、藤川宿の代表的な施設である資料館の入館者について想定した増加人数までは至っていない。そのため、周辺施設との連携や施設自体での魅力向上によるにぎわいの創出が必要と考える。 ・市道藤川沖田４号線、市道藤川田中線改良工事及び普通河川十王川暗渠化などにより、東部地域交流センターや道の駅「藤川宿」の安全なアクセス路を確保できたほか、名鉄藤川駅の立体横断施設（跨線橋）を整備したことで、地区の南北間の移動円滑化も図ることができた。また、下水道整備もおおむね完了し、健康的で良好な生活環境を創出できたと考える。 ・整備した東部地域交流センターが岡崎市地域防災計画により地区の新たな防災拠点として位置づけられたほか、隣接する道の駅「藤川宿」にも各種防災機能が整備されている。また、東部地域交流センター内に防災倉庫や地区住民が防災活動等に関する会議に活用できる防災活動室を配備したことで、災害時の円滑な活動に向けた環境の創出ができたと考える。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・さらなる交流の促進を目指し、整備した東部地域交流センターを活用した地域住民主体の地域活動を継続的に促進する。 ・・旧野村家住宅（米屋）については、景観重要建造物に指定されたことで対外的にも知名度の向上が想定されることから、今後も藤川まちづくり協議会を始めとする地域主体の活動で施設（小箱ショップ等）の有効活用を継続していくとともに、さらなる魅力向上に向け、建物自体の修景整備を検討していく。また、残された他の建築物についても、建替え・修繕の際には、魅力ある藤川宿のまちなみ景観に配慮するよう誘導する。 ・藤川宿のにぎわい創出については、ウォーキングイベント等を継続しつつ、道の駅「藤川宿」における情報提供の充実や増加している交流・休憩施設と相互のPRについて連携を図る。また、藤川宿の代表的な施設である藤川宿資料館については、展示資料の入れ替えや市ホームページでの情報提供などにより、施設自体の魅力向上を図る。 ・整備した東部地域交流センターや隣接する道の駅「藤川宿」は岡崎市地域防災計画により地域の防災拠点施設に指定されている。地域住民が災害時に自主的かつ迅速に災害活動ができるよう、藤川小学校などの既存施設や新設した防災拠点を活用した防災訓練等の実施により、自主的な防災意識の醸成を図る。